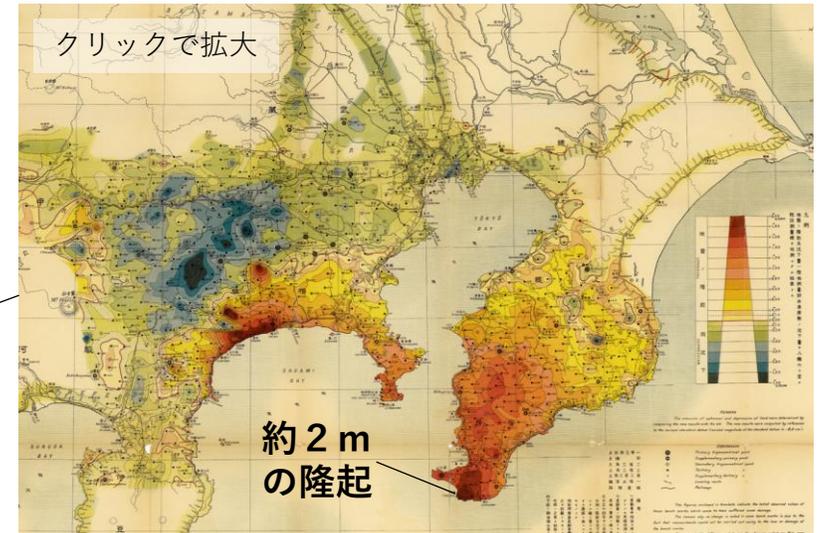


# 令和6年能登半島地震及び過去地震で観測された地殻変動の比較

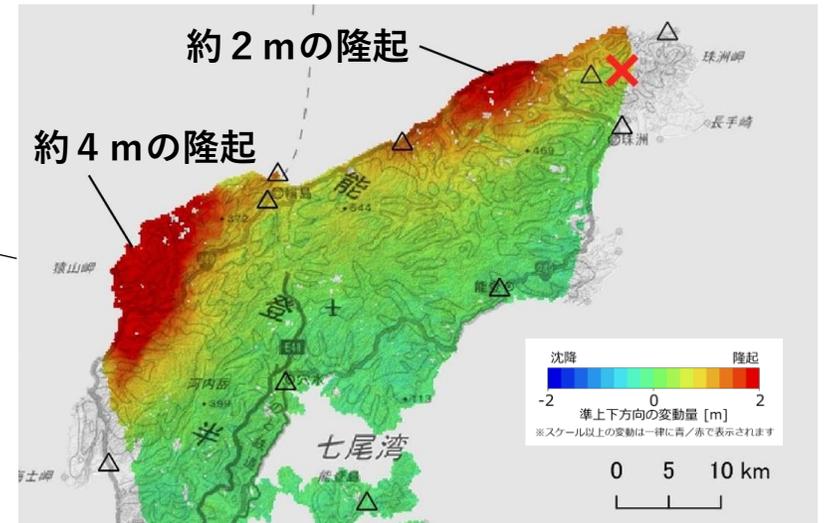
R6年能登半島地震では、過去の主な地震に比べ、大きな隆起を観測

【主な地震のマグニチュードと地殻変動量（測地測量による）】

地震 (発生年月日)	マグニ チュード	隆起・沈降量 (最大)	水平変動量 (最大)
大正関東地震 1923年9月1日	M7.9	約2mの隆起 ※1	約3m ※1
兵庫県南部地震 1995年1月17日	M7.3	約0.3mの沈降 ※2	約1m ※2
東北地方太平洋沖地震 2011年3月11日	M9.0	約1.2mの沈降 ※2	約5m ※2
熊本地震 2016年4月16日	M7.3	約2mの沈降 ※2	約2m ※2
<b>令和6年能登半島地震 2024年1月1日</b>	<b>M7.6</b>	<b>約4mの隆起</b> ※2	<b>約3m</b> ※2



関東震災地垂直変動要図（陸地測量部 作製）



R6年能登半島地震でのSAR解析結果（準上下方向の変動）

参考	断層のずれによる変位量		
	垂直（最大）	水平（最大）	
濃尾地震 1891年10月28日	M8.0	約6mの垂直変位 ※3	約8mの左横ずれ ※3

※1 国土地理院の前身である参謀本部陸地測量部作製の「大正十二年関東震災地垂直変動要図」及び「一等三角点水平位置移動要図」より抜粋

※2 国土地理院による地震後の測量結果

※3 中央防災会議 災害教訓の継承に関する専門調査会「1891 濃尾地震 報告書」より抜粋